

表現活動プログラムの デザインに関する研究の報告

小早川真衣子

東京藝術大学大学院美術研究科情報・設計研究室博士後期課程3年次

産業技術総合研究所 人工知能研究センター

サービスインテリジェンス研究チーム リサーチアシスタント

2019.1.15

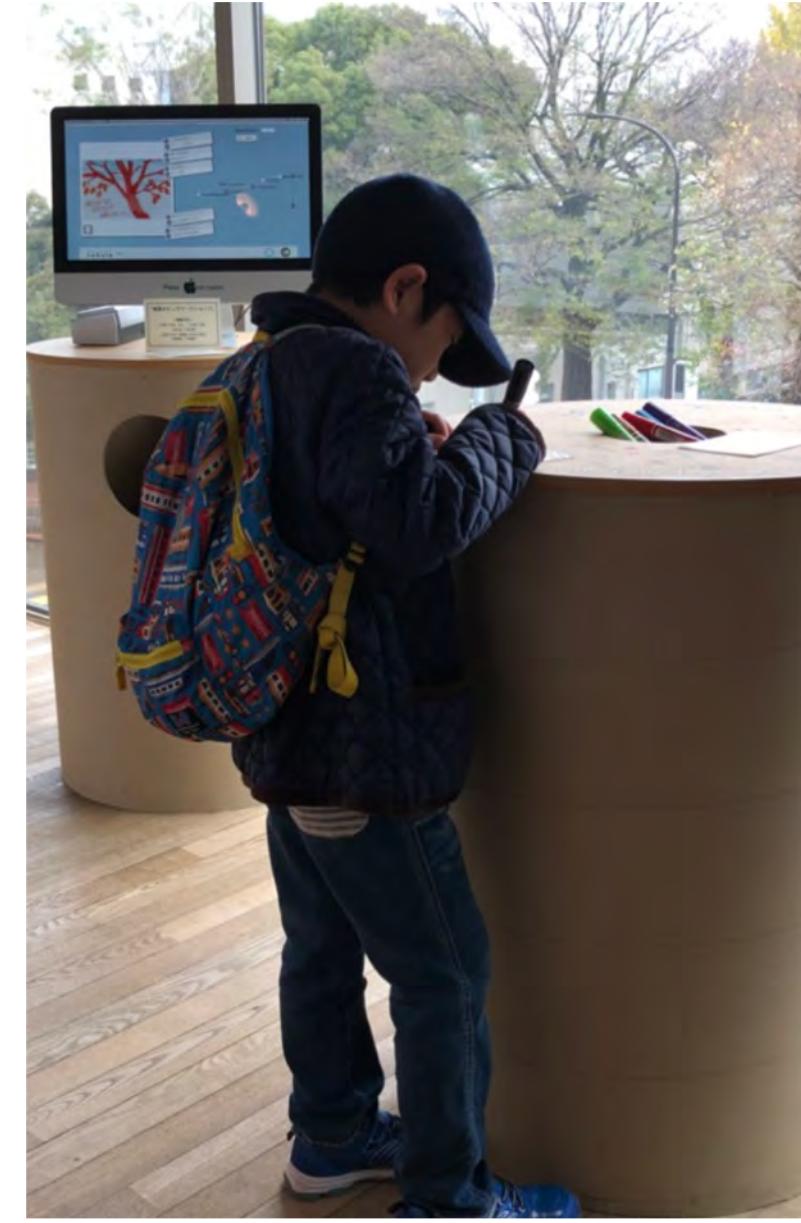
デザインの実践

道具だけでなく、活動も形づくる
(活動プログラムのデザイン)

研究の問い

省察と自己発見を伴った表現活動が社会を
より良い方向性に変革させる原動力になる
ためには、作り手が何をデザインの問題と
して捉える必要があるのか？

→表現活動の「自立」という課題



美術館来場者のための表現の場(2018.12)

「MEDプロジェクト」

Medical service + Engineering + Design

期 間：2012年～現在進行中
参加者：佐賀大学附属病院 看護師、デザイナー、研究者
ねらい：看護の仕事のあり方を変える



2012

はじまりにあったのは、
院内の情報システム端末の問題



2018

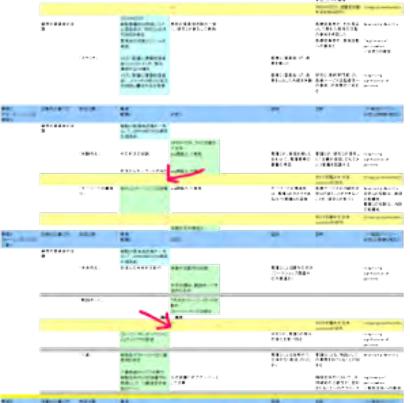
今は、看護の心を表現する場を
看護師と共につくっている

本プロジェクトの一部は、JSPS 科研費15K16174の助成を受けている（現在の体制は、佐賀大学付属病院・東京工業大学・産業技術総合研究所・東京藝術大学大学院デザイン科 情報・設計研究室・慶應義塾大学の連携による）

2012



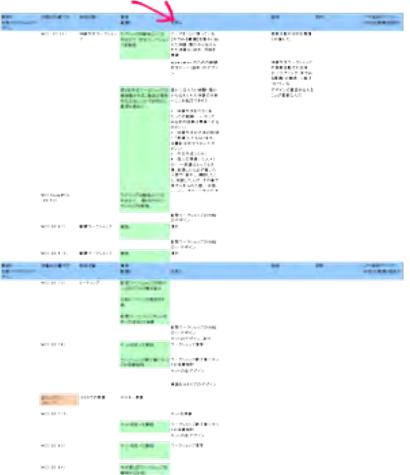
2014



2016



2018



6年間の出来事と関係性の変化

LINEみたいな

2012.4 看護師H



私たちの仕事は「記録」じゃないんです

プロジェクトの
ゴールを教えてほしい

みなさんも正解を知ってる
わけじゃないんですね

2013.6 看護師F



いいけど、それを使う時間はない

2013.9 看護師H



他の人も巻き込むけん

キット作ってるんでしょ
それ使うから

2017.04 看護師Y



2012

私が分類しましょう

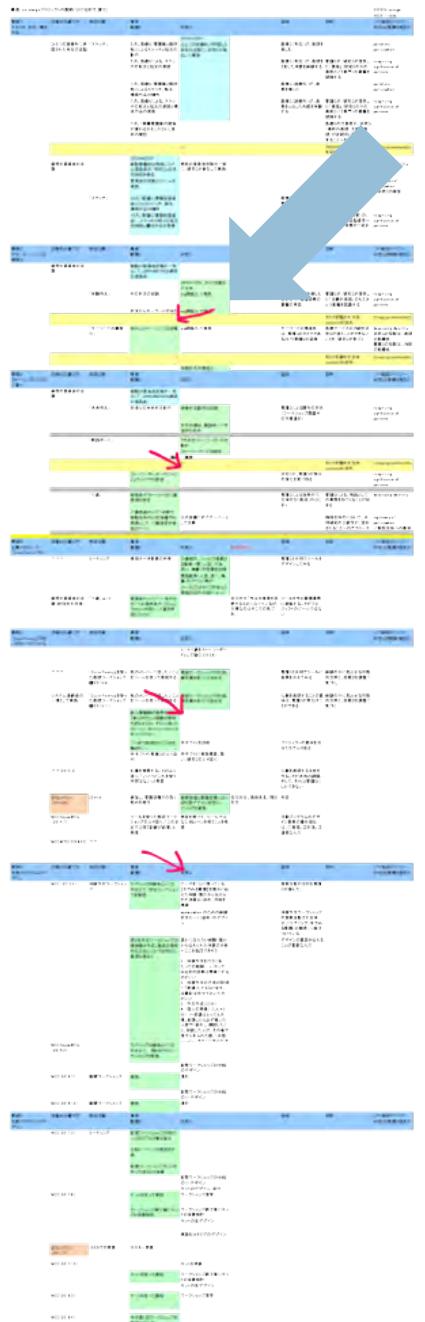


2014

2016

2018

6年間の出来事と関係性の変化



2012

他の人も巻き込むけん



2014

2016

2018



6年間の出来事と関係性の変化